

令和3年度 学校評価計画

徳島県立穴吹高等学校

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画
1 確かな学力の育成	1-1 自らの将来を具体的に思い描き、主体的に学習することを通して、基礎学力の伸長と進路実現を図る。	1① 基礎学力養成のため校内で漢字テストおよび英単語テストを実施し、年間平均85点以上の優秀者の割合を、全学年、漢字テスト、英単語テストともに30%以上を目指す。	1① 実施日に向けて国語科・英語科を中心に事前対策を行い、各学年・クラスでも学習を奨励し、校内表彰に加えて学年表彰を設けることで漢字および英単語の習得を奨励する。
	1② 1年生で国語・数学・英語の基礎教科に関して学び直しを行い、認定テストの最上級の合格率60%以上を目指す。	1② 授業および課外学習での学習時間を確保するとともに、定期考査の出題範囲に盛り込むことにより学習意欲の高揚と持続を図る。	
	1③ 学力の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査期間中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。	1③ 考査期間を含む1週間の家庭学習時間調査を実施し、生活スタイルの見直しや適切な学習内容について担任が助言する。	
	1④ 生徒対象の進路ガイダンス、進路模擬授業及び保護者対象の進路説明会等の行事を年間5回以上実施する。	1④ 各行事の内容を精選し、生徒の興味・関心・適性等に沿ったものにする。また、保護者に積極的な参加、参観を勧めるために案内文を工夫するとともに、参加機会を増やす。	
	1-2 主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるよう授業の工夫をする。	2① 他の教員の授業を1・2学期、各2名以上の授業を見学する。授業見学率100%を目指す。	2① 1・2学期に各1か月すべての授業を公開し、他の教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また、参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。
	2② 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の問いに対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒の割合が全学年80%以上を目指す。	2② 2学期末に生徒へ授業についてのアンケートをとり、結果を教員で共有することにより、生徒が主体的・積極的に取り組める授業改善に取り組む。	
	2③ 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」の問いに対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員の割合が80%以上を目指す。	2③ 2学期末に教員へ授業についてのアンケートをとり、結果をもとに、各自、授業の振り返りを行い、今後の授業改善に努める。	

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画
2 基本的 生活 習慣 の 確 立	2-1 学校や社会のルールを守るとともに正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	1① 生徒のセルフチェックで「学校や社会のきまり・ルールを守ることができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年80%以上を目指す。	1① 計画的に校舎内外の巡視や服装・頭髪指導を行い、気になる生徒には声かけや指導を行う。
		1② 生徒のセルフチェックで「うまくできないことを途中で諦めず、努力することができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年65%以上を目指す。	1② 朝のSHR前の10分間を朝の学習の時間とし、認知力向上トレーニング(コグトレ)を段階的に実施する。具体的には1年生では視覚的短期記憶・聴覚的短期記憶を高めるトレーニング、2年生では注意力や集中力、想像する力を高めるトレーニングを行い、3年生では進学・就職試験に向けた実践的な学習を行う。
		1③ 生徒のセルフチェックで「相手や場に応じた言葉遣いができる」の問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が各学年80%以上を目指す。	1③ 校内人権の日において、動画やグループワークを取り入れた、ソーシャルスキルトレーニングを実施する。
	2-2 学校生活を通して、自主的、実践的な態度を育てる。	2① 学校生活アンケートで「挨拶(会釈を含む)をしている」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2① 気持ちよく一日のスタートがきれいよう、生徒会役員がリーダーとなり、積極的に挨拶を行う挨拶運動を毎週月曜と金曜の朝に実施することで、全校生徒が挨拶や会釈を交わすことのできる習慣形成を図る。
		2② 学校生活アンケートで「清掃活動に丁寧に取り組んでいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	2② 学期ごとに清掃活動を頑張っているクラスまたは清掃分担場所を表彰す「びかびかコンテスト」を実施することで、学習環境を整える意識の高揚を図る。
		2③ 保護者アンケートで「お子様は家庭でゴミの分別に気をつけていますか」の問いに対し、保護者の割合が75%以上を目指す。	2③ 毎月アースデーを設け、美化委員がゴミの分別を呼びかけ、分別したペットボトルキャップの回収を行う。ペットボトルキャップは家庭からの持ち込みも可としており、「クラス対抗エコキャップバトル」としてペットボトルキャップ回収量の最も多いクラスを表彰することにより、校内のみならず、家庭でもゴミ分別の意識高揚を図る。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画
3 他者と協調・協働できる力の育成	3-1 自他の生命や人権を尊重する態度を養う。	1① 生徒のセルフチェックで「相手の気持ちを気づかった関わり方ができる」という問いに対し、「できる」「ほぼできる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1① ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を取り扱う。
		1② 学校生活アンケートで「困ったときに相談したり助けを求めたりできる先生や友人がいる」と回答する生徒の割合が80%以上を目指す。	1② アンケート調査や校内巡視を行い、いじめの早期発見につなげるとともに、いじめ防止に関するホームルーム活動や講演会を実施したり、教職員及びスクールカウンセラーによる相談体制を強化したりすることにより、学校が安心・安全の場となるように努める。
		1③ 避難訓練を年間3回、防災クラブの活動を年間7回行う。	1③ 生徒の防災意識を高め、発災時に適切な行動を取ることができるよう、避難訓練や防災クラブ活動を推進する。
	3-2 生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図り、人権問題の解決に向けて取り組む力を育む。	2① 12月に実施する人権問題意識調査において、校内での人権学習にクラスが「活発に取り組めた」「どちらかと言えば活発に取り組めた」と回答する割合が85%以上を、人権問題解消に向けての意欲を持つと回答する割合が70%以上を目指す。	2① 人権ホームルームを年間5回を行い、人権問題意識調査を年2回実施し、生徒の意識の変化を分析する。
		2② 12月の調査において、校内での人権学習に「まじめに取り組んだ」「どちらかと言えばまじめに取り組んだ」と回答する割合が85%以上を目指す。	2② ホームルーム活動での人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を実施することで、生徒の学習意欲を喚起する。
	3-3 礼儀正しい態度を育成し、コミュニケーション能力を高める。	3① 部活動生集会を年3回開催する。部活動顧問と担任や教科担当教員が部活動生について話をする機会を作る。	3① 部での活動全てが学校の活性化につながることを自覚させるために、部活動生集会を開催する。また部活動が生徒にとってよりよい成長の場となるよう部活動顧問、担任、教科担当教員が連携しつつ指導にあたる。
		3② 華の丘祭の成功に向け、クラス・委員会活動・部活動で協力して準備を行う。	3② 華の丘祭が地域や保護者に学校教育活動について知らせる、教育の発表の場となるよう準備を進める。

重点課題	重点目標	評価指標	活動計画
4 地域に開かれた信頼される学校づくりの推進	4-1 ふるさとに誇りを持ち、協働して働く力の育成を図る。	1① 地域に貢献する取り組みを年間7回以上行う。	1① 積極的に地域と連携する活動に参加し、ふるさとへの愛着と、協働する喜びを得る。
	4-2 地域に信頼される学校を目指し、地域の方々と関わる機会をつくる。また、広報活動を積極的に行う。	2① 中学生体験入学の来校者数100名以上、オープンスクール参加者数40名以上を目指す。	2① 「かわら版」を年間2回発行し、学校案内とともに、地域住民や近隣中学校に配付する。ホームページで中学生体験入学や11月の「華の丘教育週間」について情報発信を行う。
		2② 中学校訪問の回数をのべ30回以上を目指す。	2② 中学生の興味を惹けるよう、学校説明動画の充実を図り、魅力ある学校づくりが伝えられる学校説明を地域の中学校で行う。
		2③ 保護者アンケートにおいて「学校からの通知や広報物に目を通している」と答える保護者の割合を60%以上を目指す。	2③ 広報や通知等を郵送するだけでなく、学校ホームページに掲載することで情報発信を多く行い、保護者が目を通しやすいように図る。
		2④ ピアノコンサートを年1回以上開催し、近隣中学校生徒や同窓会員にも公開する。	2④ ピアノコンサートを開催することで同窓会より寄贈された本校のスタインウェイピアノを周知すると共に、同窓会活動の活性化の一助とする。
	4-3 働きやすい活力ある職場としての学校づくりを行う。	3① 時間外勤務の10%減少を目指す。	3① 出退勤管理システムを活用し、職員自らが勤務時間を把握する。また、管理職及び職員間でのサポート体制を構築し、勤務の均等化を図る。
		3② 年休等の取得率10%増加を目指す。	3② 長期休業中などは行事の精選をし、考査期間中などは研修をできるだけ入れないようにし、定時退勤や年休取得を呼びかける。また、学校閉庁日も設定する。